

令和7年度 ふるさと人材・地域づくり推進事業 「持続可能な地域づくり充実事業」

秋田県立雄物川高等学校

<本校での取り組み>

本校では、学校と地域社会との結びつきを強化する取り組みとして、「持続可能な地域づくり充実事業」を推進しています。この事業は、地域の人材・資源・文化を教育活動に積極的に取り入れ、生徒が地域の一員として主体的に関わることを目的としています。

具体的には、地域特産品を活用した商品開発や販売体験、地域行事への参加、外部講師による専門的な講座の実施などを通して、世代を超えた交流の場を創出しています。こうした活動により、生徒は地域の魅力や課題を自ら発見し、解決に向けて考え行動する力を育てています。

また、地域の方々にとっても、生徒の若い発想や行動力が新たな活力となり、学校が地域活性化の拠点として役割を果たすことを目指しています。学校と地域が双方につながり、共に学び、共に成長する関係を築けるよう、地域との連携を今後も一層深め、持続可能な社会の実現に貢献できるように努めていきたいと思ひます。



テーマ	雄高 SmiRing ～ おものが「わ」を広げ隊 活動中 ～
実施日時	令和7年6月～令和8年2月
連携先	横手市観光推進機構、雄物川小学校、横手市雄物川地域課、雄物川地域生産者、加工所、横手市商工会、横手市社会福祉協議会、横手市役所市民福祉部、JA 秋田ふるさと 等
場所	本校、横手市役所雄物川地域局、食品加工所「花工房」、横手市コミュニティセンター、雄物川小学校、木戸五郎兵衛村 等
参加者	家庭クラブ、生徒会、2年生、2・3年生活福祉コース、ビジネスコース
実施内容	<p>1 地域を知る</p> <p>雄物川町の特産品である「スイカ」。夏季休業中に家庭クラブを中心に、食品加工所「花工房」に出向き、スイカジャムづくりに挑戦。9月にはその学びを活かし、市役所・加工所と連携し、雄物川小学校と本校とで合同ジャムづくり講座を開催。この他にも、横手市役所健康保健部の栄養士の方をお招きし、栄養講座や地域の特産品を使った調理実習や JA 秋田ふるさとと連携し、地元の食材を活用したレシピを紹介するなど、PR活動に貢献。秋田ふるさとの良さを知り、ここ雄物川町の新たな発見や魅力づくりに向けた活動を行った。</p> <p>2 交流・発信の場づくり</p> <p>自分たちで作ったスイカジャムを使用した「スイカゼラート」を地域の祭りや市のスポーツイベント、学校祭などで販売し、県内外の方々と交流する場となった。また、かまくらボランティアを通して、県内のみならず、県外や海外の方々と交流。様々な活動を通して、雄物川地域、雄物川高校をPRした。</p>



<活動内容>

日時	活動内容	場所
7/21(月)	おもフェス	雄物川中央公園
8/2(土)	子ども食堂運営ボランティア	雄物川保健センター
8/8(金)	は・は・は祭り	雄物川庁舎
8/30(土)	スカイジャムづくり講習会	花工房
9/1(月)	雄物川小学校合同ジャムづくり	雄物川小学校
9/8(月)	手話講座	本校
9/18(木)	栄養講座	本校
9/22(月)	介護実習①	ほのぼのデイサービス
10/4(土)	赤い羽根募金活動	地元スーパー「トラスト」
10/6(月)	介護実習②	ほのぼのデイサービス
11/8(土)	トラストとのコラボ弁当販売	本校（学校祭）
12/18(木)	JA 秋田ふるさと主催 銀世界りんご王者決定戦審査員	横手市松與会館
2/14(土)	かまくら in 木戸五郎兵衛村ボランティア	木戸五郎兵衛村
2/26(木)	J A 秋田ふるさととコラボ 地産地消食材を使ったメニュー考案・調理	本校



<活動実践例 生徒感想より>

は・は・は祭り 8月8日（金）

横手市雄物川庁舎前で、は・は・は祭りが開催されました。ここでは、地元特産のスイカを使った手づくりジャム入りのジェラートを販売しました。このジェラートは、地域で育てられたスイカの甘さとみずみずしさを活かすため、丁寧に煮詰めたジェムをアクセントに加えたオリジナル商品です。「スイカのジェラートは珍しいね」とか「初めて食べたけどおいしいね」といった声をいただき、多くの方々に関心を持っていただいたことが嬉しかったです。地



域の特産を活用することで、地元の魅力を発信することの大切さを実感しました。また、この他に本校の吹奏楽部が演奏したり、司会進行を生徒会が務めたり、アンケート調査をするなど、ボランティア活動にも

力を入れ地域のイベントを盛り上げました。今回の活動を通して、商品づくりの工夫や販売の難しさ、そして地域とつながる喜びを学ぶことができました。今後も地域資源を活かした取り組みに積極的にかかわっていきたいと感じました。



雄物川小学校と合同ジャムづくり 9月1日（月）



本校の創立記念日である9月1日。この日は、地域を知る授業の一環として、地元の小学生が栽培したスイカを活用し小・高連携でジャムづくり合同授業を実施しました。当日は、雄物川小学校の児童と高校生と一緒にグループをつくり調理に取り組みました。高校生は、スイカの種取りや加熱のポイントなどを丁寧に説明し、小学生をサポートしながら活動を進めました。雄物

川小学校PTAの方々も参加していただき、地域の農作物への理解を深めることができました。本活動を通して、私たちは地元の特産品の魅力を再認識すると共に、異校種間の交流の大切さや協力することの意義を学ぶことができました。今後も地域と連携した学びを大切にしていきたいと思いました。



手話講座 9月8日(月)

手話講座の授業では、聴覚障害のある外部講師の先生をお招きし、貴重なお話を伺うことができました。講師の先生からは、日常生活の中で工夫していることや周囲とのコミュニケーションの大切さについて、具体的なエピソードを交えて

お話いただきました。普段何気なく使っている言葉や態度が、相手にとって大きな意味を持つことを知り、改めて「伝える」ことの難しさや大切さを実感しました。また、手話や表現方法を学ぶ中



で、相手の立場に立って考えること、困っている人がいたら自然に声をかけることの重要性を深く学ぶ機会となりました。今回の授業を通して、多様な立場の人と共に生きる社会について考える視点が広がりました。今後も学んだことを日常生活の中で生かしていきたいと思います。



かまくらボランティア 2月14日(土)

雪国・秋田の魅力を発信する取り組みとして行われている「かまくら」は、地域と世界をつなぐ温かな活動です。本校では、木戸五郎兵衛村でバレー部、家庭クラブ、生徒会などの生徒が観光客を案内しました。特に、近年は海外からの観光客も多く訪れ、カナダ、台湾、インドネシアなど多くの方がお見えになりました。「餅つき」や「けっち滑り」などの体験などもあり、言葉が完璧でなくても、笑顔やジェスチャーで心を通わせる経験は、生徒にとって大きな

学びとなり、秋田の文化や歴史を紹介する良い機会となりました。



成果と課題

本年度もこれまで継続してきた横手市雄物川地域・雄物川小学校との連携活動を通し、地元への理解を深めることができた。活動する生徒が毎年変化する中、今年も地域の特産を学習し、すいかジャムづくりからスタートした。栄養講座、トラストとのコラボ弁当などの商品開発を始めとし、子ども食堂運営ボランティアに参加、JAと連携し地物の食材を使った実習を行うなど本校の活動もPRできた。地域をよりよくしたいという情熱をもった方々と共に活動することで、生徒たちも自分の住む地域をより知り、郷土への愛着がわいたようだ。今後、①地域連携の更なる深化、②生徒の主体性の向上、③成果の発信の工夫をしていきたい。

また、年々生徒数が減少していく中、活動を継続することも厳しいこともあった。活動の工夫と時間の確保のバランスを考慮し、これまで継続してきた内容の更なる発展、活動の質の向上が課題でもある。

今後も一層、総合的な探究の時間と関連を図りながら、学校をあげて持続可能な地域づくりに参画する工夫をしていきたい。



